

2となりますけれども、国の10分の6と合わせて10分の8の助成を新たに行う計画としているということでございます。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） 加工品も入ってるということですね。濟いません、ちょっと私も聞き違えておりました。

水産関係においても、かなりの助成金をしていただいております。この助成も、本当に、今、漁民の所得がだんだん削られていく中で、こういう助成金があると本当に助かっております。市長の答弁のように、漁協関係の補助につきましても、高い補助率でやってもらっておりますので、これからも、この補助率が続いていきますように、また、再度見直しもしていただけますように、よろしくお願いいたします。

最後に市長の決意を聞いて終わりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今後も、この特定有人国境離島法等を活用しながら、漁民そして農業関係者、林業関係者含めて、対馬の産業の発展のために頑張ってまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） 水産に関する助成金の補助、また、魚礁関係もいっぱい出ていると聞いております。対馬の中に、県事業と市の事業の魚礁もあるように思いますけれども、これも聞くところによると、計画に入っているということで聞いております。今後とも事業の継続と、そして、さらなる補助金の上乗せができるようによろしくお願いいたします。

きょうは、ちょっと早くなりましたけれども、これで質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、坂本充弘君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩とします。再開は、午後1時ちょうどいたします。

午前11時43分休憩

午後0時59分再開

○議長（小川 廣康君） それでは、再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。

15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） こんにちは。私、清風会の大浦でございます。

このたびの対馬市ケーブルテレビの質問には、平成25年6月の第2回定例会、それと昨年9月の定例会、本年度3月の定例会、そして今回、4度目の一般質問になりますが、本日は、前回の3月の定例会に十分な時間が足らずに継続ということで、一般質問に入るわけでございます。

1つは、3月の定例会で行いました、いわゆる拠点施設のリプレイス、いわゆる更新をするに当たっての市の考え方、これについては、省略して結構と思います、答弁は。

本日、今から約9年前に——平成20年に、対馬市の市議会のほうに、市から10年スパンの事業計画の方針を提出しまして、これにより話し合いがなされ、そして、10年後には経営が好転するというふうな説明を聞いております。

しかし、なかなかそうには簡単にならなかった。その大きな要因は、平成20年と21年にケーブルテレビがこの対馬全区間つながらず、ましてや、話し合いが成立せず、一般料金の1,000円の料金をその半額である500円の徴収を行ったと。

その結果、この2カ年で2億7,000万相当の赤字が生まれたと。これを、引きずるといいますか、指定管理を受けたコミュニティメディアは、そういうふうなスタートに入ったということ、皆さんに——ここにおられる19名の中で、平成20年におられない方もおりましたから、その当時の資料を添付しております。これを参考に、私はこの500円に料金を徴収した2カ年のことを、市に大きな責任はあるというふうに理解しております。ここらの問題を、再度、私は比田勝市長の見解を聞いてみたいと。

このことについて、当時の市長は、10年スパンで完全に黒字になるから、そのことについて一々気にはしておらないというふうな発言を、平成25年はされましたが、しかし、どうもそう簡単にうまくいかなかった、いってないと。

このようなことから、この総括表、そしてその裏の添付資料、これをもとに、比田勝市長のこのことに対する現在の思いと、それからマイナス2億7,000万の、このマイナスの、そういうふうな取り扱いをどのように思っておるのか、そこらを——私はきょう、時間もあまり長く引っ張ってはいけないということで思っております。

どうかひとつ、答弁をよろしく願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

この質問のうち、IP告知システムのリプレイスの事業については、省略してもよろしいということでございますので、リプレイス事業については省略をさせていただきます。

2点目のほうについてお答えをしたいと思います。

まず、議員御指摘の10年計画の資料でございますが、平成20年6月10日の議員全員協議会におきまして、対馬市CATV事業の指定管理者制度導入に当たり、説明のために提出いたし

ました資料でございます。この資料は、直営・一部委託方式で算定した対馬市CATV運用事業概算収支計画書でございます。

この議員全員協議会では、平成20年8月からCATV事業を、暫定運営も含め、指定管理者制度導入による管理運営上のメリットやデメリットを、総合開局までの運用スケジュール等について御説明申し上げ、議会御承認のもと、制度導入に至っているところでございます。

議員御指摘のとおり、対馬市CATV運用事業概算収支計画では、対馬市CATVの総合開局の平成22年4月までは、暫定的に、条例で定める利用料月額1,000円に対し、500円とすることを条例の附則で定め、徴収することとしておりました。

このため、平成20年度から21年度までの施設の運営収支において約2億7,000万円の赤字決算となるものの、その赤字額は、平成22年度からの単年度収支の黒字で返済を重ね、8年目を迎える平成27年度に累積収支が黒字化に転換する試算となっております。

この資料につきましては、本市が直営・一部委託方式により事業運営を行った場合の暫定運用2年間と、本運用10年間における概算収支計画でありまして、指定管理者制度導入に当たり、メリット、デメリットの説明において、市の負担がおおむねどのくらいの金額になるかを示すものであり、申請者が作成します事業収支計画と直接結びつくものではございませんので、御理解をいただきたいと思います。

当初、指定管理者の指定につきましては、平成20年10月7日に、対馬市CATV施設の管理運営に関する協定書を株式会社コミュニティメディアと締結し、指定管理期間を平成20年11月1日から平成30年3月31日までの、暫定運用期間2年間を含めた10年間と定め、施設の管理運営を行っていただいております。

この指定管理者の指定につきましては、公募により進め、その募集要項において、平成22年4月の総合開局までの暫定運用期間内の利用料を月額500円とする条件を仕様書に付して、募集を行っております。

申請者においては、この暫定期間の運用も含めた10年間の事業計画及び収支計画を十分に検討された上で申請されたものであります。

指定管理者によるCATV施設の平成20年11月から平成30年3月末までの管理運営では、過去10年間において、対馬市CATV施設の管理運営に関する協定書に規定する業務が支障なく運営され、また、同協定書第23条第2項、利用料金の収入の額が管理費用の額に達しない場合においてもその差額を補填しないと規定しているとおおり、運営経費に対する協議もなく、市の差額負担も行っておりません。

年度ごとに提出されるCATV施設の管理運営に関する事業報告において、管理経費等の収支状況を見ましても、運営に問題はないものと認識しております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 少し私は思うんですけども、管理運営に何も問題がないという言い方——いろいろ昨年9月にあったんですが、そしてまた今回、このようなことを蒸し返して言う気持ちはないんですが、かなりうまくいっておらない現状を、議員の皆様含めて市長の答弁の中で、27年度までの間、かなり、何と申しますか、決算書の数字からいっても、1億円近いぐらいのマイナス要因が出ておることを知ってる中で、全く問題ないという言い方は、私はないと思います。

しかし、そういう言い方であれば、それで先に進みますが、私は、当初から500円でいったことを承知の上で公募をかけて、そしてまた補填もしないと、途中で、いうことであったという今の説明をそのときは十分知らんやったですね、全く。

そしてここを見ましたら、全く、机上の計算でありますから、人件費あたりが、市の職員が3名分のことをくんで、そして、指定管理をなされる会社においては、技術職員を複数確保するべきであるというような書き方の中で、具体的な数字は何も入っておりませんね、人件費。これが、現在30名ほどの人員が膨れ上がった中で運営をやっとるわけですが、この収支計画が将来的に10年でうまくあろうはずがないというふうに私は見るところであります。

その辺は、市長のやってみる中で、当然これはたたき台であって、あくまでも人件費あたりは、ほとんどないじゃないですか。市の職員3名分ですよ。10年間。そして、そこらは、指定管理される方々が努力してやっていくということでもいいんでしょうが、大きな問題がそこにあるかと思えます。

そのところは、共通の中で、なるほど、そこらは計算されとらんということはいいですよね。私、これを見る限りは、そのころは何も考えとらんやったんですけども、これ見ればとんでもない数字だなと思ひまして、これがうまくいくはずはないがなというのは思います。

その辺はいかがですか、市長。これを見ての、これ、あくまでも机上の計算ですから、たたき台であって。だから、人件費においては30名の職員さんを具体的にどうのこうのというのは全く書かれておらんし、収支が合うはずはない、このように思うんですが。そういうふうな、たたき台の資料ということでもいいですよ、当時の。私は今、そう感じます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この資料1の概算収支計画は、あくまで市が直営で、一部委託でやったときの試算を出したものでございます。

今、おっしゃられるように、机の上の仕事じゃないかと言われますけども、まず、その試算として市でした場合はどのような運営になるかを示さないと、指定管理のほうに持っていくにして

も、なかなか、指定管理者のほうにしましても、この業務を受けられるものかという判断が難しいということから、このような収支計画を出した次第でございます。

その中で、今、人件費は3名分しか見てないじゃないか、ということでございますけども、よく見ていただきたいんですが、この下のほうに、委託料として、番組制作の委託料、保守管理委託料、受信集金委託料、こういった中に人件費は出てきているというようなことで理解をしていただきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） この計画を今さら言っても、別に、前に進んだるわけですから、そうなんですけども、私は、500円のことが公募の中の条件に入っとったとは、よもや思わんやったんですよ。結局、そういう状態で受けますが、そして、また返さないと、補填をしないというふうな条件の中でやったわけですね、公募。

それなら、それ以上のことが、実は、はっきり言いまして、厳原地区においては厳原テレビ共同組合ですか、名称、そこの加入が話ができなかったということですかね、いわゆる最初から。たしか、そういうふうなことと記憶しております。

それから、上県と上対馬が1年目はつながっておらんやったということでもいいんですかね。

ということは、完成は、平成19年に完成ということで、17年から。ここらあたりは原因は何ですかね。私は、その辺をどうなのかなと思っておりますが。

わかる範囲で結構です。ここは詰める必要はありませんが。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も、もう十数年前のことでございますので、ちょっと記憶が薄れているところもございますが、まず、このCATVの構築につきましては、センターが美津島の——今の現在のところであるということから、この美津島から少しずつ対馬全体に広げていったという記憶をしております。

そして、一番最初に平成19年に、厳原の西沿岸地域やら市街地を除く地域、そして、美津島、豊玉、峰の一部地域の約7,700世帯を工事を済ませております。

それからまた、平成19年に続きまして20年に、豊玉、峰の一部を完成させまして、その後、上県、上対馬のほうを施工しております。これが約5,300世帯ということです。

そして、最後に、厳原市街地の厳原有線組合の加入者の地域を、対馬市のCATVとして工事を済ましたところがございますけども、厳原の有線組合のほうは、このときは有線組合さんのほうで電波を受けまして、この厳原のCATVを、有線テレビ組合を経営はされていたんですけども、この間ちょっと、当初から話をきちっと、いろいろと協議を進めながら理解をしていただい

たというようなことで、巖原の市街地が一番最後になったというような経過をたどったということとを記憶しております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私も、すっかり、市の、何といたしますか、そういうふうな、線がつながらん中や、話が見つからない中での責任があつて、今にあるんじゃないかという思いがあつたものですからね、その辺のちょっと確認をただけですが、それは最終的に、10年間のスパンの中で、全部解消していくというふうなことで一致しているということでもいいですね、市と、その指定管理者は。

それであれば、話は前に進みます。そのことが、市に非があるんじゃないかなという思いがあつたんですよ。2億7,000万という金を、つけるわけですから。

それをひっくり返していくなというふうなことがですね、基本的には、テレビの使用料、それからインターネットの利用料、その他のコマーシャル等だけですよね、この計画では。

ところが、それでは限界があるから、例えば保守管理の中で、施設の作業等を、契約を指定管理者とやる中で、やはり幾らかの収益も出てくるしかたにしてあるのかなというような思いで、そして、今回の28年度の通信機器、サーバー等のこの更新、要はリプレース入れかえ。これに私のほうとしてですね、少しどうかなというふうなことが、思いがあつております。

それでですね、有江総務部長のお話なんですが、3月の答弁で、平成28年度に約6,000万円の金額で、IP告知放送システムの、いわゆるリプレースを行ったと。

これは、当初から随契にもっていったと。その理由をちょっともう一回、読み上げます。

随契の判断。地方自治法施行令第167条2の第1項第2号により、競争入札に、この案件については、適さないことに該当すると判断した、というお話です。

そして、その詳細については——間違えていたら後で指摘をしてください——機器の交換前後において、CATV、各種サービスの接続、機器の監視等が不可欠で、その関連機器や、各種サービスへ1つの障害が発生した場合、緊時に復旧が敏速にその対応が求められることから、指定管理者への発注を決したと。いわゆる専門的な技術者が必要との見解を発言しておりますが、これに間違いございませんかね。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 総務部長のほうに答えてもらいます。

○議長（小川 廣康君） 総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江 正光君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

私が、そのような説明をしたということですが、それは本会議の中でのお話でしょうか。

○議員（15番 大浦 孝司君） はい、本会議です。

○総務部長（有江 正光君） はい。その分だけではなくてですね、施行令の167条の2第1項第2号適用というお話は、当然説明しております。

で、大きく3つの理由がございまして、機器システムの特異性、機器の特異性、そしてサービス・職種の特異性ということで、その部分で、先ほど大浦議員がおっしゃいました、24時間・365日安定的なサービス提供を求められるもので、業務遂行のためにさまざまなその技術者、CATV設備の保守管理、不測の事態が発生した場合に、緊急復旧等についても、迅速かつ的確に対応できる、サービス停止を最小限に抑えることができるという理由から、随契で施工しておりますということで説明を申し上げます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） その契約関係をですね、やっぱりわからない方が、随契とか指名競争とか、言葉がいろいろありましようが、随意契約、いわゆるその特定の理由が発生した場合に、地方自治体のほうが、そのことを契約する段階で、競争入札にかけずに満額で契約する、こういうことだろうと思いますね。

これは、定義は、私もはっきり確認はいたしません、予算金額をそのまま締結しているんですかね、この随契の金額は。ちょっとその辺を確認します。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） また後ほど、ちょっと総務部長のほうからも答えさせていただきますけれども、今、議員のほうから、随契の場合は満額で契約をさせるというような発言がございましたけれども、あくまで、随意契約としましても、きちっとした見積書、設計書をつくった上で、見積書も徴収するわけがございまして、決してそこで満額ということにはなかなかいかないのじゃないかなというふうに、私自身は考えております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それならば、28年度の告知端末のシステムの予算に対して、契約額の差は幾らですか。教えてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 本日は、その資料は持ち合わせておりません。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 6,072万というのは、契約額ですね。これ、担当部署で確認とっていますから、間違いございません。契約額です。

そうしますと、予算額は幾らですか。

私は、このことについては通告しておりますから、恐らく絞ってくるということで、そこらあ

たりはチェックしておると思うんですよ。

○議長（小川 廣康君） 市長、担当部長のほうに答えさせますか。——市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 担当部長のほうに答えさせます。

○議長（小川 廣康君） 総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江 正光君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

今申し上げました、6,072万の予算に関することですが、ちょっと今、手元の資料がですね、28年度の事業におきましては、IP告知放送の改修委託分と、合わせてその工事設計監理委託の合計の予算額の資料しかございませんが、そちらの数字でよろしいでしょうか。

○議員（15番 大浦 孝司君） この金額とは違うというわけですね。

○総務部長（有江 正光君） いえ、契約額は間違いございません。

○議員（15番 大浦 孝司君） はい。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 先に進みましょう、それならね。

それと、29年度に、これは3月にも申し上げましたが、アプリケーションサーバー改修委託、8,249万400円、それから同時に、IP告知放送システム改修、委託放送装置、1,804万2,480円。これを合計して1億53万2,880円を随意契約したということでございます。

先ほどの、部長のほうから読み上げられた理由が、その指名競争入札にこれが適することではない、このようなことで市は判断したというふうなことで解釈いたします。いいですね。

続けて進みます。

私はその後ですね、このことについて随意契約ということが、今おっしゃられる範囲の判断でいいのか、対馬市の判断であるが、じゃ、国内のレベルはどうか、ここらをですね、チェックしてまいりました。

そうしますと、反論もございましょうが、機器の更新においては、まず指名競争入札で事に対応する。

そして、先ほど言いましたように、新しい機械を設置し、それを、作業としては、その機械の初期化、その後にデータの、いわゆる移行を新しい機械に流すというふうなことでしょうが、その作業については、メーカー側の、要は作業員もおります。そしてまた、今おっしゃいますように、施設を保守管理しておる指定管理の技術者もいる。

だからそこは、話し合いがあつて初めてその経費・予算を対応するべきであつて、決して、ハードな機械を納入するがために、要は、指定管理者との契約することはいかがなものかというような意見を、これは間違いなく電話等で、あるいは、そういうことを聞き取りの中でいたしましたので、今後また広範囲に、私なりに精査することもあります。

今の外からの御発言、これをどう受けますでしょうか。市長でも、部長でも構いません。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 議員おっしゃることはですね、私たちも理解はいたします。

対馬市といたしましても、この個人情報とか、そういった、責任の諸問題に関すること以外の工事関係、例えばケーブルテレビの集約スイッチ関係の工事、これは平成29年度でございますけども、約6,400万円で、指名競争入札で、ある会社が落札をされているということでございます。

こういうふうに、その工事の内容によりまして、この工事は随意契約が適正なものか、競争入札でいいものかということ判断していくべきというふうに、私は思っております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ですから、私は調べた中で、他の自治体の技術者の意見を参考にした場合に、多額のハードの機械を随意契約することはほとんどあり得ないと。

指名競争入札にもっていき、先ほど——同じことを言いますが、データを新しい機械に移行する作業等において、そして関連機器に別にトラブルがないことを確認するためにも、双方の技術者の作業を要請すること、もしくはその経費を市で組み込むことで、十分現場は対応できるというようなことを聞きましたので、その辺を言えば、今市長は、いや、市がしたことについて問題ないんだということでもありますから、平行線でございますね、そのことについては。

それをですね、もう一回どうかとは言いません。平行線であることは1つ。

この問題と以外にですね、私はちょっと、議会の立場、市の立場、今回完全に違うんです。はっきり言いまして。

で、昨年9月のことを、ちょっと問題変わりますが、結局、市に報告があるのは、テレビ利用料、インターネット利用料、コマーシャル等の利用料の収支のみが、年に一度、担当部署にですね、報告があっております。

しかし、その資料では、例えば公募を「かける・かけん」となった大きな会社のチェックはできません。できませんというか、その資料の入手はできません。

で、それを、例えば、市はそれを持っているんでしょう。私は、そういうふうに理解しているんですが、市長、いかがですか。

税務申告に使う会社の決算書をとっておられるでしょう。

それはですね、市長の答弁でですね、その答えは出てるんですよ、今まで。資本の総額と、それから負債の総額を差し引いた金額がですね、24年ぐらいから出ておりますね。それは、決算書類がないと言えんはずですよ。

税務署に提出する3月の末。この資料を持っておられるでしょう。そうせんと、経営状態がわ

からんじゃないですか。

そして、10年スパンを超える中で、公募を「かけない・かける」の判断を、経営状態というチェックがありますから、私は、当然、対馬市はそれを持たにやいかん、当たり前のことと思いますが、それはいかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ちょっと総務部長のほうに答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江 正光君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

指定管理業務、協定を行っている事業所・団体につきましては、毎年度、その年度の収支報告を、担当部署が、徴収をしております。

で、税務申告書の写しの話でございますが、その報告に、そのような書類の提出は求めておりませんし、特にこちらが、問題があるというふうに判断をすれば、そのようなことも可能かと思いますが、今大浦議員がおっしゃっている分は、きっと勘違いをなさっていると思います。

29年の9月に、指定管理を更新した際に、同様の一般質問がなされました。

その中で、経営状況の話をつつと云々ということで、事業者のほう、コミュニティーメディアのほうから、議会のほうに資料提供があった分でございますが、その分と勘違いをなさっているんじゃないかと思っております。

こちらのほうは、直接、その事業の報告に当たって、そのような税務申告の写し等の提出は求めておりません。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 市長の答弁で、私と上野議員が昨年の9月、最近の資本合計、それから負債合計の差し引いたですね、言葉として、純資産合計という言い方を市長されておりますね、24年度いくら、25年度いくら、この数字を、市長の言葉で全部聞いているんですが、これはどこから出たんですかね。

私は、そのことを、決算資料を見らん限りは、出てこんと思うんですが。

それは、会議録に書いていますよ、きちんと。

だから、それはどこから調べたかということ、私は問うているんです。

○議長（小川 廣康君） 総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江 正光君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

その税務申告の写しは、毎年度の事業報告のたんびに提出を求めているものではないということで、私は先ほど答弁させていただきました。

で、その29年の議会で、市長がそのような発言、答弁をなさっているのは、その指定管理の更新に当たって、そのあたりの、会社の運営状況を市は承知しているのかと、某シンクタンクの資料を引用なさいまして、大浦議員のほうが発言をなさっております。その分の説明のために、コミュニティーメディアのほうから議会のほうに資料を提出された分というふうに認識をしております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 踏み込んだ話なんですけども、いわゆるですね、市議会は、この中の、いわゆる経営内容が、市に対して出しておる資料では、全体が全く見えない。市のしておる内訳としては、保守管理に伴う契約金、作業の、それから、工事請負費等年間1億ぐらいが、あっていますよ、27年度から以降。それが、いわゆる見えないと、私には、

そして、先ほど言いますように、随契も見えないと、あります。それで、それはもうしようがないじゃないですか。それを見ように見れんわけですから。

それで私は、もう時間があまりありませんが、この機会に私は、この問題に対して住民監査請求の手続をして、この問題を十分精査の上に、前に進めてみたい、かように思います。これは、一議員でそういうふうな格好がいいのかあります。

しかし、これで今まで、その会社でやってこられた従業員の方も、やはり悲痛な格好でやめた方もおります。それは、また別ですけども、この問題を、随契に伴うこの判断、それから資金の、資金と申しますか、市費の、いわゆるどれだけの金が使われたか、契約の中、その会社にですね、そこらあたりを、その手続を図ってみたいと、かように思います。で、もう、そういうふうなことで進めたいと思います。

そして最後に、きょう申し上げますが、市長のほうに申し上げたいと思います。10年後に指定管理の公募をかけないで再指定する判断基準に当たり、30年4月1日より市長が発言されております。その中で、1番から5番までは、市長は述べられております。その中に、後半の部分に、再指定する中に、職員の雇用についても、31人の人間が雇われ、その中で地元対馬の方が24人の採用されておる。地域の人材活用等も大変貢献している。そのとおりだと思います。

ところが、4月、昨年4月1日ですか。残念ながら、24名中の方の中14名がやめられたというふうなことを聞いて、胸が痛い思いであります。いろいろ言いますが、そういう現実、事実も、私の発言の中で、頭の中に置いてほしいと思います。

で、私も、まだ未熟者ですから、今から十分精査して、そして、それらの先生方と相談して、今の件について、私なりに取り組んでみたいと思います。

以上で終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。